

第23回日韓海峡沿岸市道県交流知事会議 市道県テーマ発表

□経過報告

○全羅南道・経済科学局長（裴澤休）

全羅南道経済科学局長の裴澤休(ペ・テクヒュ)と申します。

日韓海峡沿岸市道県交流知事会議の経過報告をいたします。知事会議参考資料6ページをご覧ください。

この会議は、1990年10月長崎県対馬で開催された九州北部3県知事懇談会で提案され、韓国南海岸地域の4つの市道が同意した中で出発致しました。

第1回日韓海峡沿岸県市道知事交流会議は、1992年8月、済州特別自治道で開催され、翌年6月、佐賀県で第2回知事会議が開催されました。そして98年9月、全羅南道にて開催されました第7回目会議から山口県が参加してくださいまして（※誤）、【（※正）1999年9月佐賀県で開催された第8回会議から山口県が参加】現在の8つの市道県が参加する形の会議となりました。

以来、2007年10月佐賀県で開催された第16回目の会議からは知事会議の理念を交流から共同繁栄に拡大し、知事交流会議を県市道交流知事会議に名称を変更しました。

これまで日韓8つの県市道の積極的な協力を基に、本会議は、発展を重ねており、昨年の福岡会議に続きまして、日韓両国の3回目の持ち回りで、今年、23回目の知事会議をこちら全羅南道で開催する運びとなりました。

これまで、8つの県市道間の友好を深め、相互理解を促すため、多様な共同交流事業を進めて参りました。現在、環境、水産、観光、そして青少年、情報ネットワーク、海洋ごみ清掃など7つの事業を共同で進めており、これとは別に10月には、こちら麗水にて少子化対策実務者ワークショップを開催しました。そして来年には山口県にて、第2回目のワークショップを開催する計画でございます。

文化、スポーツ、経済分野に至るまで、多様な分野にわたって活発な交流事業を行い、多くの成果を生み出している状況でございます。

今後とも日韓8つの県市道は、相互友好増進と共同繁栄のために一層協力をすることで、共生とより大きな発展がなされますことを祈念致します。

以上で、経過報告を終えたいと思います。

□動画視聴

○司会者

続きまして、過去22年間続けられました知事会議の模様を盛り込んだ動画を皆さんにご覧いただきます。約5分程度の動画でございます。それではご覧ください。

（動画視聴：約5分間）

○司会者

次は今回の会議の議長である李洛淵（イ・ナギョン）全羅南道知事の歓迎の辞です。挨拶は席に座ってしていただきます。

□議長挨拶

○議長（全羅南道知事・李洛淵）

皆さんこんにちは。全羅南道知事の李洛淵でございます。

本日、第23回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議を2012年海洋エキスポが開かれた美しい港の都市、こちら麗水で開催することになり、大変喜ばしく思います。

まず、日本国福岡県知事の小川洋様、佐賀県知事の古川康様、長崎県副知事の里見晋様、山口県知事の村岡嗣政様、韓国全羅南道へのご訪問を心より歓迎いたします。また、韓国側の徐秉洙（ソ・ビョンス）釜山広域市長、元喜龍（ウォン・ヒリョン）済州特別自治道知事、趙辰來（チョ・ジンレ）慶尚南道副知事、ようこそお越しくださいました。

日韓海峡沿岸市道県交流知事会議が今年で23回を迎えることになりました。私としましては、全羅南道知事に就任して以来、初めて出席する場であり、日本からお越しの知事の皆様に初めてお目にかかる席でございます。それで、私は今回の会議がこれまで日韓海峡沿岸8つの県市道が築き上げてきた信頼と友情を確認し、未来に向け、新しい出発を心に誓う場になることを願っております。

日本と韓国は、古代から今まで緊密な関係を維持してきました。今も経済、政治、社会、文化はもちろん、官民を問わず、多くの分野で幅広い交流が進められています。地方自治体の役割が大きくなるにつれ、両国の地方同士の交流も活発に行われています。地方自治体の交流を通じて築かれた友好協力関係は、国家間の外交関係を補ったり、促したりもしています。私は日韓海峡沿岸知事会議が23年間続いてきた理由はまさにここにあると思います。特に日韓海峡沿岸県市道との協力は、世界経済の核心圏域として成長している北東アジアの経済圏で大きな効果を発揮できるものと信じております。知事会議は、このような趣旨に共感し、これまで23年間様々な分野で交流事業を進めてきました。

1993年には水産交流事業を始め、魚類種苗の放流と魚類生態の漁獲状況を共同で研究し、環境技術の交流事業を通じましては、PM2.5の分布と特性を調査しました。94年からは観光交流事業を皮切りに、観光説明会と観光冊子の共同制作、修学旅行団の交流などを進めてきております。特に青少年の交流事業は、最も模範的に進められている共同事業でございます。青少年が日韓両国を理解し、コミュニケーションするということで、青少年交流事業は、本県市道知事会議の大きな成果であり、貴重なやりがいです。これからもこの事業がうまく進みますように、共に努力していきたいと思っております。

本日の会議は、共同テーマを「美しい景観づくり」に決めました。これに関するいい事業が提案されまして、新しい共通テーマが生まれることを願って止みません。

尊敬する日韓海峡沿岸県市道の知事の皆様、この交流会議が地域間の共同繁栄と、北東アジアの平和を切り開くのに大きく貢献できることを祈っております。私は必ずそうなると思っております。これからも県市道の知事の皆様にお会いできる機会が増えることを願っています。私もできれば時間を作って、県市道の知事の皆様をお伺いし、懸案について議論し、交流の拡大に邁進していきたいと思っております。

訪問して下さったすべての県市道知事、そして関係者の皆様に改めて歓迎と感謝を申し上げます。日韓海峡沿岸の8つ県市道の益々のご発展、そして知事の皆様の未来に大きなご栄光がありますようにお祈り申し上げます。ありがとうございました。

（一同拍手）

□テーマ発表

○司会者

続きましては、今回の会議の共通テーマであります「美しい景観づくり」に対するテーマ発

表の進行を会議運営の規定に基づきまして、全羅南道知事をお願いしたいと思います。

○議長（全羅南道知事・李洛淵）

はい、ありがとうございます。ただいまより、私が会議の進行を務めさせていただきます。

まず、県市道の知事におかれましては、共同テーマであります「美しい景観づくり」と「県市道別力点施策」などの発表を頂戴いたします。

発表の順番は、まず長崎県、そして釜山広域市、山口県、慶尚南道、佐賀県、そして済州特別自治道、福岡県、そして最後に全羅南道の順番で頂戴いたします。円滑な進行のために4人の発表者の発表があつてから、今しばらく休憩をはさんでから残りの4名の発表を頂戴いたします。それではまず長崎県の里見晋副知事の発表を頂戴いたします。

《発表①：長崎県副知事・里見晋》

アニョンハシムカ。長崎県副知事の里見でございます。

まず共通項目の「美しい景観づくり」を紹介させていただきます。今映っている写真が長崎港の外側から見た航空写真になります。長崎港は、毎年多くのクルーズ客船が入港をしております。今年約80隻が入港をする予定になっています。クルーズ客船は、写真の下になりますが、女神大橋という橋の下を通過して中心市街地のほうに接岸することになります。

長崎県の場合、海外との交流の歴史が深いということもあり、その影響を受けながらも独自の文化が育まれてきて、特徴的な町並みが数多く形成されております。図のほうにいろいろと出ておりますけれども、長崎におけるキリスト教の伝来と繁栄、激しい弾圧と、250年間もの潜伏、そして奇跡的な復活というような世界に類を見ない歴史を物語っております。2016年の世界遺産登録を目指す長崎の教会群とキリスト教関連遺産というものに現われております。写真のような教会あるいは柵田、武家屋敷は県内各地に点在しております。これらの景観資産というものを保全する取組といたしまして、国の景観法に基づきまして、長崎県では、「長崎県美しい景観形成推進条例」を策定しまして、住民と事業者、市や町と一体となった景観づくりを進めているところであります。

条例の特徴としては、美しい景観形成に関する専門的な知識、技術、または経験を有するという方をアドバイザーとして登録しております。現在33名。いろいろな施設整備の際に専門家を派遣しまして、技術的な支援を行っているところでございます。

こうした景観づくりの取組の中で長崎港周辺に絞って少々お話をさせていただきます。

映っている絵図は、18世紀頃の長崎港内の様子でございます。長崎港は、1571年にポルトガル船が入港し、交易を求めたことから開港いたしまして、その後、出島が人工島として築造され、鎖国時代も、我が国で唯一、ヨーロッパへの扉を開いていたという歴史がございます。

ただ、この歴史的な長崎港も、1854年に長崎港以外が開かれましたので、国際貿易港としての地位が低下していきました。ただ、1970年代にかけては造船業を中心に産業が盛んとなりました。ただ反面、港の近くに倉庫、クレーンなどが設置され、近寄り難い場所となってしまいます。そこで親水空間を取り戻すために、倉庫や港湾機能の移転を行いまして、1994年頃から埋立工事を始めて、港の再開発を行いました。

次の写真が、現在の様子ですが、再開発で埋め立てて造成されたオープンスペースに公園、県の美術館などを整備して、賑わいの創出を行いました。中央部分にクルーズ客船が接岸する松が枝という埠頭がございますけれども、その背後には、観光施設であるグラバー園がございます。そこからの港の眺望を確保するために、ターミナル施設を平屋建で高くしないようにつくっています。

また、海辺を散策できるプロムナードを整備して、クルーズ客船が接岸している長崎港の風景自体を感じ取れるようにしているところがございます。その公園として、水辺の森公園というところがございます。これは、都市部での快適な環境空間を創出した優れたデザインであると評価されまして、日本で権威があるグッドデザイン賞の金賞ですとか、土木学会のデザイン賞の優秀賞を受賞しております。

港からのまちづくりを進めている本県では、専門家と協議をしながら、質の高いデザインを創造する環長崎港地域アーバンデザインの取組を実施しています。専門家とデザインについて協議を重ねて、最終的にはデザイン水準の高いものを創り上げまして、賑わい空間を県民へ提供し、様々なイベントに利用されているところがございます。

この項目の最後になりますが、長崎県の夜景でございます。上が昼間で、下が夜景でございますけれども、長崎の夜景は、すり鉢状の地形が独特の立体感を生み出すということで、2012年には、香港、モナコとともに世界新三大夜景に認定されたという経緯がございます。長崎の夜景の特徴というのは、オフィスや繁華街の光だけではなく、斜面地に立ち並ぶ家々に暮らしている普通の人の生活の光が立体的な光になっているというところにあるのではないかと考えております。長崎県では、そういう美しい景観づくりに取り組んでおります。皆さんも是非現地においでになって、現地をご覧いただければと思います。

続きまして自由発表の項目で一つ、朝鮮通信使の関係をプレゼンさせていただきます。朝鮮通信使につきましては、今、ユネスコの世界記憶遺産登録の推進を目指しております。釜山市と一緒に進めております。

長崎県の対馬と韓国の釜山との距離はわずか49.5キロメートルということで、古くから朝鮮半島との交流が盛んに行われてきまして、特に、当時対馬には、対馬藩という独立した藩がございましたが、ここを介して行われた朝鮮通信使の交流というものは、江戸時代における世界的にも稀な、200年以上長い期間の交流がございまして、平和な時代の友好交流の象徴とも言えるのではないかと考えております。ただ、この象徴が日韓両国の間で、さほど知られていないということが残念なことでございまして、この場をはじめ、様々な機会を通して、朝鮮通信使について、もっと知っていただきたいと考えております。

次のスライドは、現代の朝鮮通信使関連の行事でございます。この友好交流の精神というのは現在も引き継がれておりまして、スライドの右側にあるように、対馬をはじめ、日本各地で朝鮮通信使の行列の再現が行われております。左側のほうが、釜山で毎年行われています朝鮮通信使祭りですけれども、朝鮮通信使行列の再現だけでなく、当時の対馬藩の武士団行列の再現も行われているということで、釜山市の皆さまからも、好評をいただいていると伺っております。

現在、朝鮮通信使の関連遺産をユネスコ記憶遺産に登録しようという動きがございまして、これは、日本側で朝鮮通信使にゆかりの地域の協議会で縁地連絡協議会というものと、韓国側の釜山文化財団が日韓共同で申請しまして、2017年の登録を目指すということで、県としても、釜山市と一緒にしまして、後押ししていくことにしております。こういう活動に参加されるいろいろな方の取組を通じまして、現在必ずしも万全とは言い難い日韓関係を先頭に立って改善していく役割も併せて担っているというふうに考えているところがございます。

次でございます。対馬は、釜山からわずか1時間ということで、現在年間18万人もの韓国の方々が訪れる人気の場所となっております。

また、冒頭で申し上げたように、長崎県は、長崎の教会群とキリスト教関連遺産というものを2016年に世界文化遺産として登録されるよう取り組んでおります。カトリック信者が多いという韓国からもこれらの教会などを訪れていただける方が増えるのではないかと予想しており

ます。

長崎県は日韓間において、朝鮮通信使の記憶遺産登録推進をはじめとして、地理的な近さあるいは歴史的なつながり、こういうものを活かして交流を拡大させ、今後も活性化させようとしているところでございます。

本来ですと中村知事がプレゼンすべき内容でございましたけれども、私のほうから代わりにご説明をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。

○議長（全羅南道知事・李洛淵）

はい、里見晋副知事、非常に魅力的なご説明ありがとうございました。次はソビョンス釜山広域市長、発表をお願いします。

《発表②：釜山広域市長・徐秉洙（ソ・ビョンス）》

こんにちは。釜山広域市の市長です。尊敬する日韓海峡沿岸県市道の知事の皆様、こちらでお目にかかれることになり、大変嬉しく思います。

日韓海峡沿岸の共同発展のために、23年間引き続き、持続的にこのような発表の場を設けているということは、非常に有意義なことであると思います。特にここ最近日韓両国間の首脳間のコミュニケーションの問題もややオープンになっているような、前に比べれば開かれているような気がしております。それも大変感謝し、嬉しくっております。

今回の会議の開催のために、いろいろ準備をしてくださった李洛淵全羅南道知事、そして関係者の皆さんにも感謝の言葉を申し上げます。

それでは、釜山市の景観管理についてご紹介いたします。景観管理は、河川ですとか、山、川、恵まれた天然資源に関する管理もちろんありますが、最近ではビルですとか公園などもありますので、そういう施設物に対する色彩、高さ、そして規模、形の管理というのも景観管理に入ると思います。また、都市や地域は人々が住んでいる場所なので、人のため、共同体のための空間、こういった要素がすべて総合的に考慮されるべきであると思います。それで釜山市では、単純な都市景観の管理の枠を越え、人々が集まる中心都市としての魅力的な都市景観をつくり、生活様式をリードするライフスタイルのハブシティを目指しております。

それでは、まず釜山市を紹介する動画を、ご覧いただきたいと思います。

（動画上映）

先程ご覧いただきましたように、最後のスライドが釜山で10回目を迎えております、花火大会です。ぜひ、機会があれば皆様、ぜひご訪問いただきたいと思います。ご覧いただきましたように、釜山は自然景観、都市景観、人文景観が調和をなしており、山、川、海を兼ね備えた地域であります。美しい自然景観はもちろん、海を横切る様々な形の橋や港など、特色のある物理的な都市景観と共に、ダイナミックな社会、人文景観が調和を成しております。

釜山は1876年、過去の歴史を振り返りますと、1800年代、1885年、釜山港が開港されました。そして、朝鮮戦争を経験したことで、龍頭山公園に上がる40の階段、そして山腹道路一帯にそういう景観が残されております。そして、60年代、70年代に入りまして、経済開発の復興期を迎え、履物工場ですとか、繊維工場など、いろんな産業が集積され、韓国輸出の7割を担っていた、そういう都市でもあります。

最後の写真が、2002年度釜山アジア大会、そして、広安大橋で開かれた花火大会の様でございます。

これまで100年間、釜山は良し悪しは別として、様々な歴史的な姿が都市の至るところに盛り

込まれています。1876年に開港してから、1950年、韓国戦争で多くの避難民を受入れて、無秩序に膨張しました。また70～80年代は、経済開発と共に、大都市に成長し、一方では奇形的な都市発展が行われました。

今ご覧いただいているのは、1934年開通した韓国初の島と陸地を結ぶ跳ね橋、影島（ヨンド）橋でございます。1960年代交通量の増加によって橋開きが打ち切りとなりましたが、2013年に復元されて再開通となりました。その下の写真がその様子でございます。

また、山腹道路を釜山港から見てみる、山側に多くの住宅が乱開発されておりますが、それが過去の様子というのを今も残しております。朝鮮戦争によって、避難民がたくさん集まっていた釜山は、山の中腹のところまで避難民の住居地が形成されており、その下の写真がその地域の最近の模様でございます。

つい最近まで、都市イメージに対する認識、そして都市景観に対する認識が不十分な状態でした。今ご覧いただいておりますように都市の乱開発によって、一番左側の写真をご覧ください。オリュク島イギデという釜山の南側の海岸ですけれども、マンションですとかいろいろな建物が建てられましたけれども、乱開発によって美しくない状況でした。

また、釜山の山であるファンリョン山一帯もいろんなレジャー施設が無秩序に建てられまして、乱開発の状態でした。河川も同じく自然景観と調和をなしえない、そういう状態になっていました。ですので、自然と調和をなしえない、物理的な景観がたくさん生まれることになりました。

従いまして、釜山では体系的な都市景観の管理が何よりも重要だと判断をしまして、都市景観基本計画の土台の下で、建築物の高さ管理、都市色彩管理、公共施設のデザイン管理など、詳細な景観管理計画を立てて施行しています。

最初の写真は光復路という道の写真です。景観管理のための釜山市の主な事業を表す資料ですけれども、まず衰退した旧都心、光復路を再生するため、特化街路を造成し、最近様々なフェスティバルを開催することで、活気を取り戻しています。

そして山腹道路周辺は、甘川文化村のような代表的な村があります。山腹道路の周辺には、劣悪な住居地域になっておりました。ですが、山腹道路ルネッサンス事業を進めまして、住居環境を改善し、文化観光名所として生まれ変わっています。多くの観光客が訪れる名所となりました。

このような成果に後押しされて、昨年8月の世界の大都市連合主催、優秀政策国際評価で「2014メトロポリスアワード」で第一位を受賞したりもしました。

長い間都心に位置していた米軍部隊がありましたけれども、これを移転しまして、大規模な市民公園を作りました。そこでいろんなイベントをしたりして、市民に親しみのある場所として生まれ変わりました。

釜山市は、10月21日から11月7日まで、特別な会議が釜山ベクスコで開かれました。ITU全権会議ですけれども、当時、エボラ出血熱によって、いろんな方が心配していましたが、釜山を国外にアピールする良い機会になりました。193カ国の多くの方々が毎日ベクスコに集まりまして、情報通信、IT、ICT産業の発展のための会議をしました。その期間は、釜山はICTの中心都市として浮上しました。

釜山では、このようなIT技術と結合した都市景観の総合的管理を試みております。特に最近では都心の緑地軸、眺望軸、河川軸を、回復するために努力しており、これを通じて、都市のヒートアイランド現象を解消して、都市景観をよりアップグレードさせる計画です。

今、釜山の景観管理の核心は、人に焦点をあてています。物理的な景観管理と共に人中心の人文社会的景観管理の融合を試みています。その事例としましては、甘川文化村等、山腹道路

ルネッサンス事業、そして釜山国際映画祭、釜山海のフェスティバル、花火大会などがあります。

これからも、釜山は自然景観と調和をなす、人中心の人文社会的景観を創り上げて、新しい都市文化をつくり、これを基にして都市の競争力を高めていきたいと思いを。そうすることで、独創的な人材が集まるライフスタイルのハブシティとして育成させていきたいと思いを。

以上をもちまして、共通テーマによる報告を終え、自由テーマであります、ICT融合実証都市造成事業について申し上げます。

10月20日から11月7日まで、3週間開催されました情報通信分野のオリンピックである、「ITU全権会議」をきっかけに、釜山市では、IOT、即ちモノのインターネット、ビッグデータなど、通信ハブの基盤を設けることになりました。「ITU全権会議」は日本でも20年前に開催された会議です。モノのインターネットは産業革命、情報化革命に次ぐ、超連結革命と呼ばれ、年間32%の成長率を見せている未来の新成長エンジンでございます。

実証都市の造成事業を進めようとするセンタムシティー帯はすでに流通、観光、コンベンション、映像、医療等、ICT融合経済を適用する最適な環境が整っています。モノのインターネットテストベッド構築を皮切りに、官民の協力収益モデルをつくりあげ、今後、海洋、製造など、従来産業との融合および西釜山北港再開発地域など主な地域をスマートシティとして進めていきたいと思いを。日韓県市道からも多くのご関心とご支持をお願いしたいと思いを。ありがとうございました。

○議長(全羅南道知事・李洛淵)

ええ、徐秉洙釜山広域市長が釜山の根気強く様々に努力されている姿を具体的に説明してくださいました。徐秉洙市長のブリーフィングの間に、済州特別自治道元喜龍知事が来られたんですが、立って黙礼だけお願いします。皆さん拍手で歓迎してください。

(一同拍手)

握手は後程、休憩時間にしていただければと思います。

次に山口県村岡嗣政知事、発表をお願いします。

《発表 ③：山口県知事・村岡嗣政》

私は今年の2月に知事に就任しまして、この度初めて知事会議に参加をさせていただきます。長い歴史のある素晴らしい会議でありまして、大変楽しみにして参りました。今日はどうぞよろしくをお願いします。

まず、本県の美しい景観づくりについて紹介をさせていただきます。

本県は三方が海に開かれております。そして、豊かな自然環境や歴史的なまちなみ、そういった多くの良好な景観に恵まれています。先人によって守り育てられました、これらの美しい景観を、次の世代にしっかりと引き継いでいかなければいけない、そういったことが極めて重要であると思っています。

そのため、県では「山口県景観ビジョン」などに基きまして、景観の保全、創出、活用、この3つの観点から、5つの基本方針のもとで、県民そして事業者、市や町と一体となって、「美しいやまぐちづくり」を推進しています。

県では、地域の景観に対する意識を高めるため、未来を担う子どもたちが故郷の美しい景観を守って、そして創っていくことの大切さを学び、実践できるように、小学生や中学生を対象にいたしまして、建築士などの「景観アドバイザー」などによります「景観学習」を実施して

います。

そしてまた、将来に承継すべき県内の景観を県民から募集をして、その特徴や景観が最も美しいポイント等を紹介しました「やまぐち風景づくり特選～みんなで選んだ108景観～」という108の景観を紹介する冊子を作りまして、ホームページにも掲載するなど意識啓発を図っているところでもあります。

次に、景観に配慮した県の事業について紹介をします。今、御覧いただいておりますのは、2000年に完成をしました全長1780メートルの角島大橋という橋です。この地域周辺は、北長門海岸国定公園に指定されておりまして、風光明媚な景観に溶け込むように、角島と本土の間にある鳩島をゆるやかに迂回するようなかたちで、橋の高さを押さえた構造としています。エメラルドグリーン的大海と、そして白い砂浜、そこへ架かる雄大な橋が見事に調和をして、その美しい景観から映画ですとか、テレビのコマーシャルなどの撮影によく使われております。日本の人気サイトで「死ぬまでに行きたい世界の絶景」というのがありまして、その中でも世界の中で3位、日本では1位にランクインをしているということでもあります。

次に、これは県庁のあります山口市の中心市街地を流れます一の坂川であります。ここは、「山口ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に指定をされています。1971年に台風災害がありまして、それを契機とした河川改修の際に、ここにいたホタルが絶滅することが懸念されましたので、治水とホタルの保護、これを両立させました「ホタル護岸工法」を、日本で初めて実施をしました。この工法の特徴は、ホタルの生息条件を考慮しまして、護岸を石積みにして、植物を配置した点です。これによりまして、ホタルが舞う景観が守られて、そして現在は小学生等によりますゲンジボタルの幼虫の放流活動、ホタル祭りなどのイベントも開催されて、市民や観光客にも親しまれています。私の娘も、小学校でゲンジボタルをここに放流いたしました。

そして、景観に配慮した県事業のその他でありますけれども、美しい里山風景を守るために、民間団体が行う棚田の保全活動などの支援とか、近年の課題であります空き家対策として、市や町と連携した住民に対する相談窓口を開設をしますとともに、古い民家の再生などによります地域の活性化を図ることにしています。

また、県内各地域においても様々な取組が行われています。まず、歴史的なまちなみや建造物を活かした取組について紹介をさせていただきます。

萩市という所がありまして、こちらは数多くの歴史的遺産が存在しております。このまち全体を博物館と見立てて、「萩まちじゅう博物館」として都市遺産の保存や活用を図るまちづくりに取り組んでいます。

下関市の長府地区では、歴史的景観の保全のために修景整備、そして、市民によるまちなみを守る活動を行っています。この皆さん御覧になっている右側の写真は修景前と後を比較したものであります。

また、岩国市では17世紀に創られた木造アーチの橋・錦帯橋という橋がありますけれども、これを中心とする地域で風情のあるまちなみの保全を実施しています。

次に、自然景観を活かした取組についてご紹介します。

皆さん御覧になられております左上の写真は、長門市の東後畑という地域の棚田の風景であります。この地域では、地域の住民が棚田保全会を組織して、地域全体で景観の保全を図っています。水田と夕日、そして漁火のコントラストが美しく、「日本の棚田百選」にも選ばれています。

右上の写真は、周南市の大道理の「芝桜交流の里」でございます。地域住民だけでなく、他の地域からも参加をして、棚田の畦に1万㎡棚にわたり芝桜10万本を植える活動をしています。

そして下の写真は、光市の室積海岸であります。ここでは、美しい松林の海岸を守るため、クロマツの戸籍簿の作成ですとか、定期的な植樹、そして小中学生をはじめ市民が一体となって環境美化活動を行っています。

以上が景観の関係で、続きまして、自由テーマとして、世界スカウトジャンボリーについて紹介をさせていただきます。

来年の夏、7月28日から8月8日までの12日間、山口県で第23回世界スカウトジャンボリーが開催されます。今年の夏には、プレ大会として、第16回日本ジャンボリーが開催されまして、韓国からも159名のスカウトの参加をいただきました。成功裏のうちに終わりました。この場をお借りして感謝を申し上げます。

山口県では、来年の世界スカウトジャンボリーに合わせて、世界のスカウトたちと県民が交流する場、産業、観光、文化など、本県の魅力を発信する場として、県独自に「やまぐちジャンボリーフェスタ」を開催することになっています。このフェスタでは、多くの県民の参加を得まして、スカウトの皆さんをもてなし、ジャンボリーを大いに盛り上げたいと考えています。ぜひ韓国からも多数の皆さんの御参加をいただきますようによろしくお願いいたします。

最後に山口県は素晴らしい景観だけではなく、フグをはじめ豊かな海の幸、山の幸にも恵まれています。それらにぴったりの地酒も豊富であります。そしてまた、山口県内には約50箇所の温泉があります。泉質もバラエティに富んでいます。特に下関市と釜山広域市の間には、関釜フェリーが就航しておりますので、ぜひ山口県にもお越しいただきたいと思っております。皆様の御来県を心からお待ちを申し上げます。私からの発表は以上でございます。

ありがとうございました。

(一同拍手)

○議長(全羅南道知事・李洛淵)

はい、村岡嗣政知事、良い、面白い報告をしてくださいました。個人的には来年夏の休暇に、山口に行こうかと思っていたんですが、フグ料理の話がされるのを聞くと、今年の冬に行かないといけないという考えにもなり、混乱しています。次は趙辰來慶尚南道副知事、発表をお願いいたします

《発表④：慶尚南道政務副知事・趙辰來(チョ・ジンレ)》

皆さんこんにちは。慶尚南道副知事、趙辰來でございます。洪準杓(ホン・ジュンピョ)知事はご公務のため出席することができなくなりました。皆様にご了承願いたいと思っております。

日韓海峡沿岸県市道の知事の皆様、そして今回の会議の開催にご尽力いただきました李洛淵全羅南道知事にお目にかかることができまして、嬉しく思います。

美しい景観を活かした慶尚南道未来50年について発表致します。

美しい景観は地域の重要な資産です。ですので、体系的な保全だけではなく積極的な景観活用も共に行われる必要があります。慶尚南道はこれまで保全に焦点を当てた景観政策を繰り広げてきました。しかし、新しい未来50年のグランドビジョンを設定している今、観光資源を開発するにおいて景観の重要性を認識し、新しいアプローチを試みております。

日韓海峡で向かい合う慶尚南道と日本は美しい海岸と山岳など、豊かな景観資源を保有しているという類似性があります。景観を活かした地域開発を通じまして、世界的な観光地帯へと共に発展していくために、景観の新しい価値を提示させていただきたいと思っております。

本日の発表の順序ですが、まず慶尚南道未来50年の推進背景、そして美しい景観の創造的開発の順で発表いたします。

それではまず慶尚南道未来50年の推進背景について申し上げます。

慶尚南道は過去50年間、韓国が主導してきました、機械、造船産業中心に発展してきました。世界的な造船産業のメッカとして成長し、慶尚南道の発展は直ちに国家産業政策の成果であると言えます。しかしこのような過去の成長モデルはもはや限界にぶつかっています。世界的な景気低迷によって、造船、機械など主力産業が徐々に衰退しています。慶尚南道の未来を率いる新しいビジョンと成長エンジンが求められている、そういう時期にきています。

ご覧いただいていますように、慶尚南道未来50年は、過去の国家主導型経済成長の限界に直面した時代の状況を認識し、新しい未来に向けた大規模の地域構造、産業構造の改編戦略です。今後の50年を準備する、超長期に及ぶグランドデザインと言えるでしょう。慶尚南道未来50年を通して完成したいと思っているのは、堂々とした慶尚南道時代、未来50年の幸せな約束です。活気ある経済、地域のバランスの取れた発展、暮らしたい慶尚南道、この3つの目標を達成したいと思います。慶尚南道全体を6つの圏域に区分して、圏域ごとに産業を育成し、慶尚南道の景観資源をうまく活かして国際的な観光地として開発しようとする細部事業を計画しております。

続きまして慶尚南道が進めております、美しい景観の創造的な開発について申し上げます。私どもは3大国立公園と多島海など、非常に優れた景観資源を有しております。このような景観の価値をうまく活かして新しい成長戦略を今見つけようとしているところです。山と海の自然景観を活用して国際的な観光拠点を開発しようと思っています。智異山の山岳景観、そして南海と鎮海の海洋景観を観光資源として開発しようとする3つの事業についてご紹介します。

まず鎮海というところに位置したグローバルテーマパークはアメリカFOX社から投資を誘致して開発を進めております。テーマパーク、ホテル、カジノなど約35億ドルの投資についてメモランダムを締結しました。これから、優れた自然景観とIT、韓流が融合した国際的なエンターテインメントのハブとして創り上げていきたいと思っています。

次は慶尚南道で最も美しい海洋景観を有しております、南海郡ですが、島全体をヒーリングアイルランドとして開発しております。ダイエットのための宝島ヒーリング団地、環境に優しいテーマビレッジの開発などを通じまして、ギリシャのサントリーニに次ぐ国際的な観光休養地として開発していく計画です。

次は山岳観光の活性化事業でございます。これまで国立公園として指定され、徹底的に保存してきた智異山の山岳景観を新しい資源で開発しております。山岳ホテルをつくり、ケーブルカーを設置するなど、観光客のアクセス性を高め、美しい山岳景観をより多くの方々に共有させていただきたいと思っています。

ご紹介申し上げましたように、慶尚南道は美しい景観、そして特色のあるコンテンツが取り入れられた観光開発を通じて韓国最高の観光地域として成長を準備しております。未来50年グランドビジョンが完成される50年先には、慶尚南道の一人当たりのGRDPが8万ドルを越え、韓国最高の発展地域になるものと予想しております。

今まで慶尚南道が進めている美しい景観を通じた慶尚南道未来50年設計についてご紹介をさせていただきました。日韓海峡を挟んだ地域が国際的な観光地帯として共に発展できるよう緊密に観光協力をするを提案しながら私の発表を終わりたいと思います。最後までご清聴いただきましてありがとうございます。

(一同拍手)

○議長(全羅南道知事・李洛淵)

はい、趙辰來副知事、慶尚南道の野心に満ちた未来ビジョンを発表してくださいました。今

まで4人の知事の発表を伺いました。皆様に予告していたとおり15分ほど休憩をして、次にまた4人の知事の発表を伺うように致します。簡単なお茶と飲み物が用意されていますので、召し上がってご休息ください。ありがとうございます。

(約15分間休会)

(再開)

○議長(全羅南道知事・李洛淵)

次は佐賀県の古川康知事が発表します。

《発表⑤：佐賀県知事・古川康》

それでは、佐賀県から発表いたします。

私達からは、共通テーマとして、美しい景観づくりの中で2つ、そして、自由テーマとしては、佐賀県の特徴的な産業である有田焼の創業400年、この大きく2つのお話をさせていただきます。

それでは、まず美しい景観づくりからですが、私達をご紹介したいのは、交差点をどう綺麗にするかという事です。交差点は、本当は、極めて注意深くなくてはならない所なのに、そこに沢山の広告が出ているという事は、皆さんの地域ではないでしょうか。佐賀県にはありました。これは、交通事故の増加にも繋がるし、景観上も良くないという事で、条例を作り、数年かけて、交差点の区域から広告物を取り外す事にしました。

その結果、この図を見ていただくと分かるように、当初は左側の様に広告物だらけだった交差点が取り組みをした後には右の様に全く広告がなくなりました。韓国においてもそうですし、日本においてもそうですけれども、こうした看板をどう規制してくのかという事は、大きなポイントである気がします。県内でこうした取り組みをした結果、交差点の中に禁止されている広告物が全部撤去された交差点は86%までいきました。あと14%残っていますので、何とか100%までもっていきたいと思っています。

他の交差点の例です。これはちょっと分かりにくいのですが、左から右を見て下さい。左も沢山の赤い看板なんかが出ている交差点が、右の様になりましたという事で、右の上の方ですね、左の上から右の上になりましたという事です。それとは別の交差点で、今度は左の下を見て下さい。左の下の交差点が右の下の様になっています。

この様に取り組みをした事によって、すっきりして、事故も減りますし、気持ち良く通行する事ができるようになりました。美しい景観を作るための取り組みとして、交差点の広告物をなくしていくという事は、これは一つの方向性として提案できるのではないかと思います。

もう一つは、韓国にも沢山の素晴らしい建物や文化というものがありますが、放っておけば、それが次の時代に継承されないという心配はないでしょうか。私達、佐賀県の中には、そういう問題がありました。勿論、国が指定する様な重要な文化財については保存がなされる訳ですが、例えば、それに至るまでのない物については、国の指定を待つ事なく、県が住民と一緒に、今の内に守っておかなければ、次の時代に建物や文化を残す事ができないと私達は考えました。今は、国が思う程の価値はないかも知れないけれども、私達にとっては大事な遺産だ、こうした物を22世紀に残す佐賀県遺産として制度化をしました。例えば、今、ここに写っているのが、これまで焼物を作っていた所が焼物を作らなくなった、昔の焼物工場の跡地です。指定をした後、そこでは右側の写真の様に講演会が行われたり、音楽会が行われたりしています。保管をしていくのに、県と市から一部補助が出ますので、所有者は大変ありがたいがっています。

私達が残していこうとするのは建物だけではありません。今、見ていただいている写真は、

ぬいの池という池です。大変素晴らしい綺麗な池です。ところが、この池は周りで随分、地下水をくみ上げて農業をやっていたため、暫くの間、涸れてしまっていました。そこで、佐賀県は随分遠くからこの地域に農業用水をもって来る事によって、このぬいの池に水を取り戻す事に成功しました。この池は、こうした住民の手によって、清掃の作業、掃除をする作業も行われて、綺麗に保たれています。ここではとても美味しい水を飲む事ができます。お茶にもぴったりです。こうした美味しい水を飲める環境を次の時代に残していくという事も、広い意味での景観ではないかと私達は考えます。

自由テーマに移りましょう。今から400年前に日本で初めて磁器を作ったのが佐賀県の有田という所です。あと2年後に400年を迎えるという事で、今、有田焼は新しい商品開発を始めています。

今、ご覧になっておられる写真は、パリで行われた、メゾン・エ・オブジェというヨーロッパで最大の見本市に出展した時の様子です。また、私達はこのメゾン・エ・オブジェに出展するには、今、写真の右側に写っておられる奥山さんという方をプロデューサーに招き、この方は日本を代表するデザイナーですが、このために新しく商品を開発して展示してみました。

お陰様で、大変大きな反応がありました。伝統技術というものは、過去からのものを大切にするだけでなく、今の生活にあったもの、世界に通用するものを新しく作り出す能力というものも含めて技術というものだと改めて私は感じました。

これはオランダのデザイナーと組んでスタートしたプロジェクトです。オランダのデザイナーと組んで、この真ん中の下あたりに赤い皿やブルーのコップが見えますが、こうした物は有田の技術者とオランダのデザイナーがコラボレーションして作り上げたものです。これはエルデコという世界的なファッション雑誌で世界一の称号を得る事ができました。

私達は16人のオランダ人やヨーロッパのデザイナーの人達と16の焼物の窯元、焼き物を作る所、これを合せて、あと2年後に世界にデビューをさせていきたいと思っています。ひょっとしたら、皆様方のお近くでも、こうした焼物を見かける機会が出てくるかも知れません。

私達は、今、オランダとの間に新しい交流関係を作りつつあります。このオランダとの交流関係や先程申し上げたフランスでの出展等を通じて、新しい伝統産業のあり方について、良い例を実現していきたいと思えます。ありがとうございました。

(一同拍手)

○議長(全羅南道知事・李洛淵)

はい、佐賀県の古川康知事、大変美しい景観づくりのための佐賀県の非常に地道な努力を、具体的に説明してくださいました。個人的には22世紀という単語を今日初めて聞きました。ありがとうございます。次は、元喜龍(ウォン・ヒリョン)、済州特別自治道知事が発表してくださいます。

《発表⑥：済州特別自治道知事・元喜龍(ウォン・ヒリョン)》

こんにちは。済州特別自治道知事元喜龍と申します。

これより、わが道が進めております、美しい島の景観づくり、加波島プロジェクトについて、その背景と現況、基本構成と推進日程の順番で申し上げます。

それではまず事業の背景からご覧ください。今まで加波島(カパド)の島に対する関心不足によって、基盤施設は劣悪な状況であり、雇用問題などで定住人口が減少したことで、全体的に住民生活の質の低下が大変深刻な状況です。

一方、この島への観光客が増加し、庶民の所得の増大のニーズによって、無分別な開発が懸

念されています。これは町の景観はもちろんのこと、住民の暮らしまで傷つける可能性が高まり、濟州島では、住民の生活を保存するとともに、住民の所得を創出することのできる新しいモデルを提示しようと、加波島プロジェクトを進めております。

事業の対象地である加波島は、濟州島の南のモスル港と馬羅島の間に位置しており、島から加波島までは20分程度かかります。他の島とは違い、最高高度が標高20メートル以下で、全体的に平坦な島となっています。そして面積で見ますと日本の瀬戸内海に位置する犬島や18ホールゴルフ場の面積ほどの島となっています。大変散歩のしやすい規模の島です。こちらの島ですが、美しい自然景観を誇ります。規模が小さく、地形が平坦であるので朝から晩まで自然景観の変化を観察できるという良い島です。その他周辺の海や農耕地で経験することができる多様な自然景観の資源を持っています。加波島で見る本島の景色や海岸の景観が優れており、この島の中では、本島とは違った別の石垣景観が大変特徴をなしており、農耕地の景観のうち、4月から5月の麦畑の景観は有名です。

1980年代は1,000人以上が居住していたということですが、今は245人が居住しており、ほとんどが水産業に従事しています。加波島には長らく培われてきた歴史文化資源が豊富であり、1920年代に建てられた辛酉義塾(シンユウウイスク)が、現在ではガパ小学校の建物が残っており、伝統民間信仰の場であるハルマンダンなど歴史的にも意味のある場所が多く残されています。

また、外部の方にはよく見えないかもしれませんが、町の住民の皆様の畑や、海女の文化など長らく培ってきた生産文化も残されています。

町は大きく上同(サンドン)、中同(チュウドン)、下同(ハドン)というふうに区分されます。上同(サンドン)、上という漢字を書いてサンドンと読みますが、町の入口にこの裏の入口が隣接しており、長らくの風景をもっていますが、宿泊施設によって風景が傷ついています。中同(チュウドン)はインフラ施設を管理する公共建物が集まっており、小学校や農業関連施設があります。また、下同(ハドン)には漁船が停泊する裏の入口があり、町会館、漁業施設などが密集していて漁村の町の風景を誇っています。

このプロジェクトは1年12ヶ月、ほかの姿を持っている町の景観と住民の暮らしの価値を理解し、生態、経済が持続的に進むよう、生態学と経済学が共存する島を作るのが目的です。そのために住民、行政、専門家等の協力の下に問題を解決して、変化に適切に対応できるシナリオプランを立てようとしています。

まず生態回復計画は、町をめぐる海岸道路のうち、一部を元の地形にもどし、生態系の循環を回復し、渡り鳥の渡来地や放置された自然景観を回復しようという計画です。

また、町の施設整備は町の景観整備の目的と共に、産業体制の改善の目的をもつもの、そして上同(サンドン)、中同(チュウドン)、下同(ハドン)という同(ドン)の各産業に対する本部の役割をすると期待し計画を進めております。

そして、新築よりは町の老朽化した建物を活用して、再生を率いるような産業にし、気候変動に見合った省エネのできる建物にリモデリングする計画です。

そして町経済が持続可能な発展のために、1次産業本位の産業体系を、2次3次産業に広められるよう、生産物の加工や包装デザインなどを企画しています。そして島の外部にアンテナショップを造成し、加波島製品の需要増を図ります。

上の写真は、1年に加波島の生産物が育ち、これを採取する内容を構成した事項でございます。そしてその次は、この事業が終わった時に予想する定住人口や予想観光客、宿泊客数を表に表したものです。

そしてこちらの表は加波島プロジェクトの、これまでの推進事項や今後の計画のロードマップでございます。この加波島プロジェクトを企画する過程においては、日本の美しい景観を造

成するにおいて、美しい景観の10分の1を隠してはならないという10%ルールも本当に参考にさせていただいた部分です。

そして最後ですけれども、その他協力事項について申し上げます。

世界的な環境リーダーや専門家が参加いたしまして、環境や経済、社会を包括する多様なイシューを話し合う第1回世界リーダーズ・保全フォーラムが2015年に済州にて下期に開催される予定です。当初来年3月に開催予定でしたが、3月には日本の仙台にて世界災難リスク軽減会議が開催される予定ということで、成功裏なフォーラムの開催のために、重複を避け、韓国の環境部と国際自然保全総会と現在日程を調整しています。正確な日程が決まり次第また皆様にお知らせします。このリーダーズ・保全フォーラムに、日韓海峡沿岸県市道8つの地域の地方政府の環境政策を広報するセッションをする方策を考えています。実務的に十分な検討をなさってから、皆様の御協力を賜りたいと思います。以上です。ありがとうございました。

(一同拍手)

○議長(全羅南道知事・李洛淵)

はい、元喜龍知事、大変詳しい報告ありがとうございます。少し前に、元喜龍知事が紹介してくださったその島の周辺の海が、韓国で最も有名なブリの名産地です。もうすぐブリの季節になりますが、今年の冬に是非一度行ってみてください。はい、次は福岡県の小川洋知事が、発表してくださいませ。

《発表⑦：福岡県知事・小川洋》

ありがとうございます。福岡県知事の小川洋でございます。今回、4回目の参加となります。皆さん、よろしく願いいたします。

共通テーマのご説明に入る前に、福岡県がどういう県かっていう事を簡単にご説明させていただきます。

福岡県は九州の北部に位置しています。面積が5千km²、1970年以降、人口はずっと増え続けております。GDPが約18兆円とシンガポールよりも少し小さい規模でございます。交通の要衝でございます。福岡空港から世界9カ国、17都市、18路線を結んでおります。国内は26路線をもっております。旅客数は日本の空港の中で3番目のお客さんの多さであります。また、博多港、港の方は、外国航路のお客さんの数が20年連続で日本一であります。

古くから日本と韓国の交流の窓口として大きな役割を担っておりまして、昨年、九州に125万人の海外のお客様がお越しになりましたが、その内、93万人の方が福岡に入ってきております。九州のゲートウェイとしての役割を今も果たしているということでございます。九州、それから福岡県に入ってきて来られる海外のお客様の約6割が韓国からのお客様となっております。

都市機能が整備されておりまして、自動車、ロボット、半導体といった先端産業が非常に盛んですけれども、一方で自然も豊かで、農林水産業も盛んでございます。日本の47都道府県のうち、14番目の農林水産業の出荷額でございます。

3年前の東日本大震災で、私共、日本人は、特定の地域に我々の人口、産業、そして色々な機能を集中させる事の脆さ、危うさというものを実感した訳であります。私、知事になって3年半になりますけれども、この福岡県を東京、大阪、愛知に次ぐ都市圏として、しかも、太平洋側ではない都市圏、アジアを向いた都市圏として発展させたいと考えて、施策を展開してきております。その際、環境という観点でいいますと、経済成長と環境を両立させていこうという事で、施策を展開しております。

今日は、福岡県は4つの地域に分かれておりますので、それぞれの地域毎に我々の取組みを

説明させていただきたいと思います。

まず、県庁所在地がございませう福岡地域でございませうが、太宰府政庁や鴻臚館、古来から色々な役所があつて、ゲートウェイを果たしていた地域であります。今、行政管理中枢機能が九州の中で集まっております。3次産業が非常に盛んでございませう。西日本のリーディングゾーンとしての発展を続けている所でございませう。日本有数の都市だと言えらると思ひます。人口は、今、150万人ちょっとですが、周りを入れると百数十万人、二百万人位になります。

プロ野球球団のソフトバンクホークスがありまして、4番がご承知の通り、ロッテジャイアンツにいた李大浩選手でございまして、今年、3年ぶりに日本一に輝きまして、最後、決めた時は、私は球場で応援してございまして、非常に嬉しかつたです。

このヤフオクドーム、下の写真にありますけれども、ドームがあつて、ホテルがあつて、タワーがあつて、これは新しいウォータフロントを整備した訳であります。いわゆる、ハイテク産業とか会社が沢山ありまして、「食」、それからマンション、「住」、それから色々なエンターテイメントが楽しめる、そういったゾーンができてゐるわけなんです。

国連ハビタットのアジア都市景観賞を二度、この福岡地域は授賞してございませう。イギリスのモノクル誌で、世界で住みやすい都市ベスト25で、東京、京都に次いで10番目に選ばれてゐるということでございませう。

もう一つの百万都市でございませう北九州に移りたいと思ひます。かつて四大工業地帯の一つとして、我が国の近代化、或いは高度成長を支えた訳ですが、その間、非常に深刻な公害問題に直面をいたしました。左の写真の下の方に、山の上から見た夜景がありますけれども、その山の上から、左の上の写真みたいに、煙がもうもうと物凄く出ていたわけなんです。私、子供の頃に七色の煙と言われてございまして、七色の煙が日本の成長の証だと聞いていたのですが、行き詰りまして、海は下にありますように、黄色の泥の様な海になっていたわけなんです。それが官民挙げての取組みで、右の様な海に変わった訳でございませう。暫くすると、煙一つない街と説明してございまして。それから、洞海湾という左のドブみたいな海が綺麗な海になってきてゐる訳でございませう。

最近、公害問題を克服して環境都市として生まれ変わった地域として、世界的にも評価されてございませう、OECDでもアジアで初めて、グリーン成長都市として選定されたところでありませう。

今は、左下にあります様に、後背地の山から望む夜景というのが一つの売りになってございませうし、海からクルージングで工場の夜景が楽しめる様になってございませう。こちらの麗水の工場と同じ様な感じだと思ひます。

それから、福岡には韓国の総領事館がある訳でございませうが、朴総領事を始め、5つ外交施設がございませうが、そこの総領事に集まっていたいで、本県の産業とか景観を知ってもらおうということで、インダストリアルツアーを始めました。今年の夏に始めた訳ですが、1回目は北九州に行きまして、工場見学と右下の海から見る工場夜景というのを一緒にやつて、それから安川のロボット工場、TOTOのウォシュレットの工場、そういうのを見ていただきました。そういう形で大変好評でした。これからはもしっかりやつていきたいと思ひてございませう。

残りの二つの地域を説明させていただきます。

筑豊地域は、福岡と北九州の中間にありまして、かつて日本一の石炭を産出してゐた、石炭鉱山が沢山ある、一時期は日本の石炭鉱山の半分の山がある地域でございませう。近代産業国家入りを支えた訳ですが、炭鉱が、石油が入つてきて以降、どんどん閉山され、今は一つもない訳でございませう。経済は停滞し、後遺症であります鉱害、地盤の陥没などに非常に苦しんだ訳でございませう。これも一生懸命克服いたしまして、現在では、右にあります様に、自動車産業、そして農業が盛んな地域になってございませう。左上にありますボタ山、或いは炭坑の坑口が、

全部整備されて、住宅や公園に変わっております。川も真っ黒な、石炭を洗いますから真っ黒な川だった訳ですけども、今は鮭が上って来る位まで綺麗になっております。

右が遠賀川の菜の花が咲き誇っている春の絵でございます。真ん中は、山本作兵衛さんというユネスコの世界記憶遺産になった、石炭産業めぐる庶民の日常生活を表した記録画でございます。そういったものと、NHKの朝の連ドラで評判になりました石炭王の邸宅、左側にありますが、伊藤伝右衛門邸、この辺が観光産業の一つのスポットとして今活躍をしているところであります。

もう一つ、最後の地域、筑後地域でございます。これは県の南の方に位置する地域でございます。自然が非常に豊かで、農林水産業、地場産業、商工業が盛んな所であります。船と鉄道輸送と一緒に共存するという事で、右上にあります、橋が船が通る時、上がる訳でございます。これは鉄道の線路なんですけど、船が来ると真ん中の部分が上に上がっていく昇開橋という橋が、佐賀の古川さんの所との間をつなぐ橋なんですけど、これは鉄道が通らなくなりまして、今は歴史的遺産として活用されている所であります。

この県南は田園都市でございます。生活・農業用水の利用や水による物の輸送ということ、それから治水という観点から掘割、クリークが沢山掘られておりまして、人工のクリークが沢山整備されております。水と一緒に暮らしていくという文化が定着しております。

一時期、生活用水が掘割・クリークに入ってきて、汚れてきた訳です。それで、どうしようかという話があったのですが、住民と行政が一体となって綺麗に守って行こうという方向で今は復活をいたしております。今はここにありますように川下り、舟に乗った観光というのがこの町をずっと、堀を廻っていくといった川下りというのも盛んになっているわけでありまして。これは水環境を上手く保全する事によって、観光という地域の振興につないでいくやりかたであります。

通常、景観に関する計画というものは、自治体単位で策定するものですが、福岡県の場合、全国で初めての試みだった訳ですけど、川単位でやってみたんですね。上流から下流まで一緒になって、景観を保全する計画を策定した。関係者で協定を結んで、景観を保全する取り組みを具体化してく。

そういう事で、右の方、よくあるセブンイレブンですが、これが柳川だとセブンイレブンが違ふ表になっていると。これも景観を地域に合せてお店の展開をやるという取組みでございます。

以上、4地域の取組みを簡単に申し上げましたが、総括いたしますと、美しい景観というものは県民共通の財産であります。景観を守り育てて、次の世代に引き継いでいかなければなりません。そのためには、行政だけではなく、県民一人一人の意識と行動が大事になります。そのため、福岡県は国の法律制定に先立ちまして、条例を制定して、官民の関係者、全ての人に入ってもらい協議会を作って、具体的な取組みを進めていきました。

その際、今ある景観を守るだけではなくて、それを上手く守りながら、新しい発展に繋いでいく、経済とかに繋いでいく、両立させていくという視点を上手く入れていく事が大事だろうと思っております。

今回の知事会議では、今までずっとおかげさまでございましたけれども、それぞれ実情に合わせた創意工夫をこらした取組みがありますので、それを互いに学び合って、取り入れられる所は取り入れていく事が大事な事ではないかと思っております。ありがとうございました。

○議長(全南南道知事・李洛淵)

はい、小川洋福岡県知事、非常に印象的な発表よく伺いました。福岡県がどれほど多様な面を持っているかということが、とても印象的でした。次は最後に私たち全羅南道を代表して私が発表をします。

《発表⑧：全羅南道知事・李洛淵》

尊敬する日韓海峡沿岸県市道の知事の皆様、世界4大美港と呼ばれる麗水で、美しい景観づくり施策を発表することができてとても意味深く思います。施策の報告に先立ってまず韓国全羅南道の美しい自然景観を動画をご覧ください。

(動画上映)

はい、只今より全羅南道の美しい景観づくりに対するビジョンと政策方向、主要施策、そして共同交流事業に関する提案ということで、順番に申し上げたいと思います。

まずビジョンおよび政策の方向です。7月1日ですが、全羅南道知事に就任してから我が全羅南道をほかの地域と比べて、美しい都市にするため、まず「森の中の全羅南道」、「行ってみたい島作り」、「良い景観作り」といったものを景観ブランド施策として掲げました。

まず、第一に「森の中の全羅南道作り」でございます。

私は全羅南道全体をうまく整備した公園のように、きれいな場所にしたいという夢を持っています。このためには民と官がお互いに協力しまして体系的な木植え活動などをしていく計画です。来年から1年間に1千万本ほど、10年間、1億本の木を植える計画です。

町や空家、都心の切れ端など、道路側の道ですとかに木を植えて自然景観を高めていく計画でございます。山や干拓地などでは、防風林など所得を上げられるような木種を植えて育てる計画です。保険機構で進めております1人当たりの生活圈都市森の面積は9平方メートルですが、全羅南道ではその3倍でございます、1人当たり27平方メートルまでこの森の面積を増やしていく計画です。

そのために「森の中の全羅南道」の造成10か年計画を立てまして、道レベルの植樹民間推進協議会をたてまして、この関連した条例をつくるなど、公園のような全羅南道を実現するため体系的な努力を傾けてまいります。

続きまして、「行ってみたい島作り」です。韓国の南西にあります全羅南道ですが、2,219の島を持っています。韓国の島のうち、65%が実は全羅南道にあるということです。ですから全羅南道の海を多島海、島が多い海と呼びます。天に恵まれた自然景観を、我々の島を、魅力的に作り、核心観光資源として活用していく計画です。

「行って見たい島作り」10か年計画を立てまして、まずは魅力溢れるブランド12を育てていきます。この島作りは、自然環境を最大限保存し、一つ一つの島々がもともと持っていた独特のカラー、魅力、香りなどを最大限引き出していきます。人と文化と景観が調和を成した、世界的で、また郷土味のある島に育てていきます。10年後、我が全羅南道にお越しくくださった際には、憩いの場として、また固有の生態系が保存されている地域を皆様に実感していただけたらと思います。

続きましては、良い景観づくりです。全羅南道では美しい景観を作るために、歴史性とアイデンティティを生かす景観づくりを進めています。また、夜間の景観にも注目しています。都市計画、デザイン、造景、建築、生態系、環境など60余りのそれぞれの専門家の意見を集め、景観政策に反映してまいります。

優秀な景観資源を発掘して、景観の保存や管理、景観の形成計画などを樹立しています。来年から全羅南道では美しい道、美しい店、美しい街、美しい森、美しい島を対象に全羅南道の

ベスト景観を選定、表彰し、広報していく計画です。この景観づくりのモデルとなる様々な事業を発掘いたしまして、中長期的に進めていく計画です。

そして、公共デザインにおきましては、我が地域で生産される高品質の農水畜産物を土台に、統合ブランドデザインの開発を行っていきます。このように1次産業の公共デザインを融合させまして商品化及び産業化はもちろん、雇用創出までつなげようと思っております。

続きましては、美しい景観づくりに関する、各市道県の共同交流事業について、次のような提案を全羅南道でさせていただきます。

全羅南道では2016年5月5日から29日まで、25日間でございますが、「2016世界エコデザイン博覧会」を開催いたします。縣市道では自治体や企業の広報館ブースを設けていただき、関連団体に展示事業などにぜひ参加してくださることを提案いたします。実務的な問題は、また追加でご報告いたします。

また、持続可能な都市発展に向けたアイデアと情報を共有する場といたしまして、日韓両国の優秀景観展示会や景観の発展方策に関する共同シンポジウムの開催などを提案いたします。

そして最後ですが、自由テーマでございます。

来年2015年ですが、全羅南道では潭陽（ダミョン）という地区で「潭陽世界竹博覧会」と「国際農業博覧会」が開かれます。

まず「潭陽世界竹博覧会」です。来年9月17日から10月31日まで45日間、潭陽郡竹緑園という地区で開催されます。'畑で見つけたグリーン'というテーマで、竹のすべてについて博覧会が開催されます。

次は「2015国際農業博覧会」です。農業博覧会は、博覧会以上の意味を持った博覧会です。同年10月15日から11月1日まで18日の間、全羅南道の羅州（ナジュ）市にあるに農業技術院の方でこの博覧会が開催される予定です。創造農業とヒーリングの世界というテーマで地球レベル、人類的レベルの農業価値と、今後進むべき道において大きな影響を及ぼす博覧会になると思います。

来年この二つの国際行事が開催されますが、皆様、この場にいらっしゃいます海峡沿岸縣市道知事の皆様の御協力を賜りたいと思います。以上です。

ありがとうございました。

（一同拍手）